

ブラッドパッチ治療が あなたを救います！

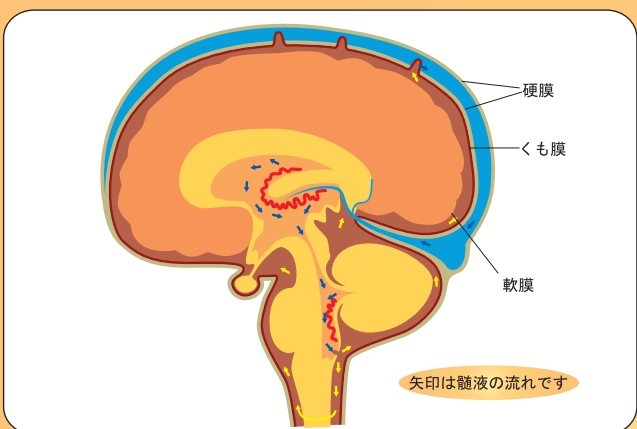
慢性疲労症候群 TV・新聞・雑誌などで知られている むち打ち症

低髄液圧
症候群

吐き気 記憶力低下 顔面違和感 発汗異常
めまい 思考力低下 耳閉感
うつ病 倦怠感 慢性頭痛

～この1年間で陽性と診断された患者数が、80名から800名となる！～

の役目をして髄液の漏れを防ぐ方法です。



自家血硬膜外注入とは自分の血液を硬膜外腔に注入する方法です。

場合も多いため、外傷性低髄液圧症候群がほとんどです。特にむち打ち症などの後遺症としてこの病気が注目されてきています。この病気の治療としては、安静臥床と補液が第一選択であります。内服薬は一般の鎮痛剤はほとんど効果がなく、偏頭痛の治療に用いられる力フェイン製剤や喘息治療薬であるテオフィリンが良く効く場合があります。しかしこれら治療で効果が見られない場合は自家血硬膜外注入を行います。自家血硬膜外注入とは自分の血液を硬膜外腔に注入する方法です。

Q 交通事故にあい、何年もたちますが良くなりません。最近テレビで低髄液圧症候群の特集をみましたがどのような病気なのでしょう？

A 最近、低髄液圧症候群が注目されているのは、軽微な外傷、例えば交通事故、スポーツ外傷、分娩、くしゃみ等によって硬膜に穴が開いてしまい、そこから髄液が漏れ出てしまう可能性があるとわかったからです。髄液の量が低下すれば様々な症状が出てきます。症状としては起立性の頭痛、頸部の凝りや痛み、めまい、記憶力の低下、疲れやすい等多彩です。

自動車の追突事故などの後、いつまでも良くならないむち打ち症をしばしば私たちは経験します。その大部分は頸椎症として説明できるのですが、中にはMRIなどの検査でも何ら異常を認めないような場合があります。

これまで、それらは心的場合が大きいのではないかとされ、漫然と鎮痛剤が投与され続けたり、精神科医に対処が求められたりしてきました。確かにそういう対処が望ましい場合も多いため、外傷性低髄液圧症候群がほとんどです。特にむち打ち症などの後遺症としてこの病気が注目されてきています。この病気の治療としては、安静臥床と補液が第一選択であります。内服薬は一般の鎮痛剤はほとんど効果がなく、偏頭痛の治療に用いられる力フェイン製剤や喘息治療薬であるテオフィリンが良く効く場合があります。しかしこれら治療で効果が見られない場合は自家血硬膜外注入を行います。自家血硬膜外注入とは自分の血液を硬膜外腔に注入する方法です。